

閩粵訓読比較

村上 之伸

1. はじめに

周知のとおり、訓読には、漢文訓読のような文レベルの訓読と、「海」を「うみ」と読むような語レベルの訓読、いわゆる訓読みがある。漢字を借用した言語に限定すると、前者は日本語以外にも朝鮮語、ウイグル語、契丹語など北方のSOV系言語でみられるのに対し、後者は北方だけにとどまらず、壮語、ベトナム語、苗語など南方の言語でも確認されている。

この語レベルの訓読は、漢語方言にも存在する。その発生を式で表すと次のようになる。

$$A(\alpha) + B(\beta) \rightarrow B(\alpha) \quad B = \text{訓読字} \quad \alpha = \text{訓読音}$$

例えば厦門方言の訓読「打 (p'aʔ⁽¹⁾)」の場合は以下のように表せる。

$$\text{拍}(p'aʔ) + \text{打}(taN3) \rightarrow \text{打}(p'aʔ)$$

つまりこれは、本来「拍」の字音であったp'aʔが訓読字「打」の訓読音

になったことを表している。

しかし漢語方言におけるその現れ方は一様ではない。本稿では特に閩南語と粵語の訓読を分析し、それぞれの特徴と原因について明らかにしたいと思う。

2. 粵語の訓読

粵語の訓読は閩南語とどのような違いがあるだろうか。まずはその数の違いに注目したい。よく知られているように、閩南語には多くの訓読があり、特に海南閩南語はその中でも突出している。詹伯慧（1957）は次のように述べている。

「海南島上の漢族人民、絶大多數操一種屬於閩南話系統的方言。這種方言在詞彙上有一點很特別的地方，這就是同義字的“訓讀”（姑且這麼稱呼）現象，這種現象不僅在其他漢語方言中少見（不是沒有），就是跟閩語系統的其他方言比較，也是很突出的。」

しかし、粵語は少ない。黄小姪（2001）が、ロプシャイトの広州方言の辞典『漢英字典』（A Chinese And English Dictionary, 1871）から集めることができた訓読字はわずか20字程度であった。

- ①□(ma1) + 孖(tʃi1) → 孖(ma1)：ツインの
- ②□(ŋɔŋ6) + 𪗇(hɔŋ5) → 𪗇(ŋɔŋ6)：愚かである
- ③□(la5) + 罅(ha5) → 罅(la5)：すきま
- ④□(leŋ5) + 靚(tʃiŋ6) → 靚(leŋ5)：美しい
- ⑤□(mak7-2) + 擘(pek1) → 擘(mak7-2)：裂く
- ⑥𦉳(lɔŋ6) + 𦉳(lɔŋ6) → 𦉳(lɔŋ6)：干す
- ⑦□(nei1) + 𨵿(tʃyn1) → 𨵿(nei1)：隠れる
- ⑧𦉳(nep8/jep8) + 涪(hep8) → 涪(nep8/jep8)：湿っている

- ⑨賺(tʃan6) + 聽(wan5) → 聽(tʃan6) : 儲ける
- ⑩游(jeu2) + 泅(tʃ'eu2) → 泅(jeu2) : 泳ぐ
- ⑪挽(wet7) + 屈(kwet7-2) → 屈(wet7) : 曲げる
- ⑫鬱(wet7) + 屈(kwet7-2) → 屈(wet7)⁽²⁾ : 憂鬱になる * 現代広州方言の例
- ⑬□(tœŋ1) + 啄(tœk7-2) → 啄(tœŋ1)⁽³⁾ : ついばむ
- ⑭□(pei1) + 跛(po5) → 跛(pei1) : 足を引きずる
- ⑮□(kip7-2) + 澀(sap7-2) → 澀(kip7-2) : 味が渋い
- ⑯𠵿(nep7) + 凹(ap7-2/au1) → 凹(nep7) : くぼんだ
- ⑰崽(tʃei3) + 仔(tʃi3) → 仔(tʃei3) : 子供
- ⑱□(me3) + 歪(wai1) → 歪(me3) : 傾ける
- ⑲恰(kap7-2) + 合(hap8/kap7-2) → 合(kap7-2)⁽⁴⁾ : 合わせる
- ⑳擦(tʃ'at7-2) + 刷(jytʃat7-2) → 刷(tʃ'at7-2) : 磨く * 現代広州方言の例
- ㉑裰(nœŋ6) + 襠(tœŋ1) → 襠(nœŋ6) : 「褲襠」でズボンのまち
- ㉒踩(tʃ'ai3) + 踹(tyn5) → 踹(tʃ'ai3)⁽⁵⁾ : 踏む

黄小婭(2001: 49)が述べているように、これらは少数だが、粵語の地域的特徴をもっている。

「廣州方言訓讀字構成的詞語, 數量不多, 卻很具地方特色, 它們既保留了古漢語詞, 又保留了方言」

この中で①から⑩の例は今日あまり見ることのない古語で使われている字である。漢字である以上、本来の字音βが存在しているが、その多くは今日めったに用いられることのない「死音」といってよいであろう。例えば、粵語の孖はtwinを意味する訓読音ma1の訓読字であるが、本来の字音tʃi1で使われることはまずない。また、美しいという意味の靚にしても普通はleŋ5と訓読音で読まれ、本来の字音であるtʃiŋ6と発音されることは漢文の授業のような場合を除いてないのではないか。このように実際には訓

読音の方が読音として常用され、訓読字も粵語で文章を書くときにはよく使われているのである。それはAに文字のわからない、いわゆる「有音無字」が多いことから理解できる。

①以降の訓読について本来の字音 β が用いられる例は少なく、使われたとしても、訓読音と異なり、以下のような文章語に限定されている。

啄 (tɔk7-2 : 啄木鳥)

仔 (tʃi3 : 仔細)

歪 (wai1 : 歪曲, 歪心, 歪念頭)

この他に、上掲論文や李新魁等 (1995 : 279) には普通話の影響を受け、最近になって生まれた訓読字が挙げられている。

②鑊 (wɔk8) + 鍋 (wɔ1) → 鍋 (wɔk8) : 鍋

④逼 (pik7) + 迫 (p'ak7-2) → 迫 (pik7) : 強いる

⑤畚 (p'ɔ1) + 棵 (fɔ3) → 棵 (p'ɔ1) : 草木を数える

⑥揸 (kɛm6) + 摠 (ɔn1) → 摠 (kɛm6) : 指先で押す

⑦揼 (ɛm3) + 揼 (ŋ4) → 揼 (ɛm3) : 手などで押さえる

これらは先述した古語のものとは反対に、共通語の字としてはよく見られるが、粵語の口語ではほとんど使われることのなかった字である。そのため、人々が粵語の常用語 α でこれらの文語的な同義字Bを訓読したと考えられる。とはいっても α と本字Aの字音の結びつきがこれによって弱まったわけではない。粵語としてはこのほうが自然であるといえるだろう。

またこれらの訓読字が本来の字音 β で読まれることも少なく、以下のような文章語に限定されている。

鍋 (wɔ1 : 鍋爐)

迫 (p'ak7-2 : 逼迫)

3. 閩南語の訓読

閩南語の訓読については以下の資料を参考にした。

- ・泉州…『彙音妙悟』, 王建設・張甘荔 (1994)
- ・厦門…北大中文系 (1989), 周長楫 (1993), 陳榮嵐・李熙泰 (1994)
- ・漳州…『雅俗通十五音』
- ・潮州…『潮語十五音』, 張盛裕 (1984)
- ・瓊州…梁猷剛 (1984a) (1984b), 陳鴻邁 (1993), 杜依倩 (2008)

これらに記載されている訓読字から広範囲で使われているものを以下に挙げる。

- ① 湲 (tiN6) + 滿 (buan3) → 滿 (tiN6) : 一杯になる
- ② 儕 (tsue6) + 多 (to1) → 多 (tsue6) : 多い
- ③ 凋 (ta1) + 乾 (kan1) → 乾 (ta1) : 乾く
- ④ 箬 (hioʔ8) + 葉 (iap8) → 葉 (hioʔ8) : 葉
- ⑤ 芳 (pʼaŋ1) + 香 (hioŋ1) → 香 (pʼaŋ1) : 芳しい
- ⑥ □ (teʔ7) + 壓 (ap7) → 壓 (teʔ7) : 押さえる
- ⑦ 塋 (tsʼan2) + 田 (tian2) → 田 (tsʼan2) : 田畑
- ⑧ 農 (laŋ2) + 人 (lin2) → 人 (laŋ2) : 人
- ⑨ □ (tai2) + 埋 (bai2) → 埋 (tai2) : 埋める
- ⑩ 倚 (kʼia6) + 企 (kʼi5) → 企 (kʼia6) : 立つ
- ⑪ 圀 (kʼŋ5) + 藏 (tsɔŋ2) → 藏 (kʼŋ5) : 隠す
- ⑫ 懸 (kuaiN2) + 高 (ko1) → 高 (kuaiN2) : 高い
- ⑬ 下 (ke6) + 低 (te1) → 低 (ke6) : 低い
- ⑭ 饗 (tsiaN3) + 淡 (tam6) → 淡 (tsiaN3) : 味が薄い
- ⑮ 冥 (me2) + 夜 (ia6) → 夜 (me2) : 夜

- ①⑥ 𠵹 (kiaN3) + 子 (tsu3) → 子 (kiaN3) : 子供
 ①⑦ □ (bat7) + 識 (sik7) → 識 (bat7) : 認識している
 ①⑧ 拍 (p'aʔ7) + 打 (taN3) → 打 (p'aʔ7) : 殴る
 ①⑨ 卵 (nŋ6) + 蛋 (tan5) → 蛋 (nŋ6) : 卵
 ②⑩ 𠵹 (naʔ7) + 凹 (au1) → 凹 (naʔ7) : くぼむ
 ②⑪ □ (pai3) + 跛 (pɔ2) → 跛 (pai3) : 足のわるい
 ②⑫ 瘡 (san3) + 瘦 (sɔ3) → 瘦 (san3) : 痩せている
 ②⑬ 跋 (puaʔ8) + 跌 (tiat8) → 跌 (puaʔ8) : 転ぶ
 ②⑭ 粳 (tiu6) + 稻 (to6) → 稻 (tiu6) : 稲
 ②⑮ 喙 (ts'ui5) + 嘴 (tsui3) → 嘴 (ts'ui5) : 口
 ②⑯ 箒 (t'ai1) + 篩 (sai1) → 篩 (t'ai1) : 篩
 ②⑰ 骹 (k'a1) + 脚 (kiɔk7) → 脚 (k'a1) : 足
 ②⑱ 蠓 (baŋ3) + 蚊 (bun2) → 蚊 (baŋ3) : 蚊
 ②⑲ □ (gɔŋ6) + 𪚩 (hɔŋ6) → 𪚩 (gɔŋ6) : 愚かである

上の例のように閩南語の訓読字には共通語でよく使われる字が多い。これも粵語と異なっている点である。但し②⑲𪚩は、粵語と共通する訓読字でもあり、別に考える必要があるだろう。

また、本来の字音βも以下のように文章語の造語成分として非常によく使われている。

- ① 滿⁽⁶⁾buan3 : 満足/滿面/自滿など
 ② 多to1 : 多數/多半/差不多など
 ③ 乾kan1 : 乾枯/*乾燥/*乾洗など
 ④ 葉iap8 : 葉綠素/中葉など
 ⑤ 香hioŋ1 : 月來香/香港/*香料など
 ⑥ 壓ap7 : 壓力/壓迫など

- ⑦田tian2：心田/田徑/*田地など
- ⑧人lin2：人民/#人才/#人工/*人命など
- ⑨埋bai2：埋葬/埋沒/埋藏など
- ⑩企k'i3：企業/企圖/企求など
- ⑪藏tsɔŋ2：藏書/*暗藏/*收藏など
- ⑫高ko1：高中/高級/*高度など
- ⑬低te1：低空/低氣壓/*低溫など
- ⑭淡tam6：暗淡/冷淡/*淡水/*淡色など
- ⑮夜ia6：夜校/夜景/*夜市/*夜班など
- ⑯子tsu3：子孫/子女/獨生子など
- ⑰識sik7：知識/意識/見識など
- ⑱打taN3：打游擊/*打消/*打破など
- ⑲蛋tan5：皮蛋/蛋白質/*蛋清など
- ⑳凹au1：凹版/凹塌/凹面鏡
- ㉑跛pɔ2：*跛脚
- ㉒瘦sɔ3：瘦弱/瘦身
- ㉓跌tiat8：跌宕
- ㉔稻to6：稻穀
- ㉕嘴tsui3：嘴臉
- ㉖篩sai1：篩選
- ㉗脚kiok7：失脚

この中で、訓読音で読んでもかまわない語と読み方の違いで意味が全く変わってしまう語にはそれぞれ*と#を付けた。

例えば、⑤香は芳しいという意味では普通、訓読音p'anɿを用い、「月來香」や「香港」の中ではhioŋɿと読むが、「香料」では二つの読み方が可能

になる。また「人材」や「人工」の⑧人は字音で読むか訓読音で読むかで下表のように意味が変わる。

＜表 1＞

	字音	意味	訓読音	意味
人材	lin2tsai2	人材	laŋ2tsai2	器量
人工	lin2koŋ1	人工の	laŋ2kaŋ1	クーリー

4. 閩粵訓読比較

ここで両者の訓読にみられる差異を整理してみる。

＜表 2＞

訓読字	数	どのような字が多いか	本来の字音 β
閩南語	多い	共通語でよく用いる字	使用頻度の高いものが多い
粵語	少ない	共通語で用いない字	使用頻度の低いものが多い

では閩南語に訓読が多いのはどうしてか。それは文白異読と関係があると思われる。よく知られているように、閩南語の文白異読は独特⁽⁷⁾、多くの字に文言音と白話音という複数の字音があり、その数は音韻的に二層に分けることができるほどだと言われ、実際に閩南語系韻書の記載においてもはっきりと区別されてきた。

訓読によって生じた本来の字音 β と訓読音 α という二つの読み方は、下表のように、まさに文言音と白話音と同質の関係になっているのである。

<表 3>

文白異読字	白話音	用例	文白異読字	文言音	用例
三	saN1	三角	三	sam1	三伏
問	mŋŋ6	請問	問	bun6	問題
學	oʔ8	學堂	學	hak8	學習
訓読字	訓読音	用例	訓読字	本来の字音	用例
高（懸）	kuaiN2	高度	高	ko1	高級
識（□）	bat7	識字	識	sik7	見識
葉（骸）	hioʔ8	樹葉	葉	iap8	姓葉

もちろん、本来の字音と訓読音の関係は閩南語系の韻書においても、文言音と白話音の関係と区別せず、例えば泉州系韻書『彙音妙悟』であれば訓読字に白話音の字と同じように「土解」などの註が付してあり、それで、文言音或いは本来の字音とは異なる層であることを認識させようとしている。

また黄典誠（1980）には自身が長い間、人の訓読音lan2を白話音と認識していたと書いてあるが、それも当然であり、他の訓読字でも起こり得ることなのである。

「回憶幼年初進小學，上“國文”課時，翻書一看，就是一個大大的楷體“人”字。老師說漳州話，開口教我們念的是：[ɬin2 si6 lan2]。意思是說，“人”這個字，文讀音是[ɬin2]，白讀音是[lan2]。... [lan2]這個音的意義，在閩語絕大多數的情況下，是跟“人”字相通的，通常都認為他就是“人”字的白讀音。長期以來，我也深信不疑。」

つまり文白の二つの層の存在が訓読を容易に発生させたということができる。一方、粵語の場合、文白異読をもつものは一部に限られていて、例えば、韻母では梗攝開口二等字（生：文jeŋ1/白jaŋ1）及び三四等字（領：

文leŋ4/白leŋ4, 惜: 文sek7/白sek7-2) ぐらいしかないのである。閩南語のような文白異読をもたない粵語では訓読が発生しにくかったと思われる。

5. 方言俗字と訓読字

粵語の方言俗字の中には、それと音義の似た文語的な言い方が存在するものがある。表4でペアにして挙げてみる。

＜表4＞

意味	方言俗字	推定中古音	文語	中古音
来る	嚟lei2/lei2	蟹開四來	来lɿ2	蟹開一來平
引く	搵men1	梗開三明	挽wan4 cf. 晩man4	山合三微上 山合三微上
無い	冇mou4	遇合三微	無mou2	遇合三微平
乳	𦵏nin1	山開四泥	奶nai3	蟹開二泥上

これらはちょうど、閩南語で「埋める」の意味をもつtai2（有音無字）と埋bai2の関係と同じである。ただ閩南語ではtai2が埋の訓読音となったが、粵語ではそのようにならなかった。閩南人であれば、意味が近いのであるから、その音声を経介して口語的な字音が文語的な文字の訓読音となってもおかしくないと考え得るであろうが、そうっていないのである。⁽⁹⁾

粵人は方言俗字を用いて口語と文語の違いを文字上でも音声上でも明白にしたいと考えたのであろう。もし訓読するとなると、閩南語のように文字上で口語と文語の区別はできなくなってしまうので、そうなることを好まなかったのである。

一方、閩南語はすでに大量の文白異読によって文字上で両者の区別ができなくなっていた。それは同時に訓読が発生しやすい状態であった。

6. 方言同音字と訓読字

表5は、黄小婭（2000）がロブシャイトの『漢英字典』（1871）、『實用廣州話分類詞典』（1997）、『廣州話詞典』（1997）から“粵語方言用字”（粵語使用地区で通用している粵語を記録した漢字）674字を取り出し、古本字（『廣韻』や『集韻』などの韻書で探し出せる本字）、訓読字、方言俗字、方言同音字或近音字（仮借）、借用字（古書などにあるが粵語と音義が異なる字）の五つに分類したものであるが、ここからも先と同じような粵語らしさをみることができる。

<表 5 >

方言用字分類	数	割合	例字
古本字	199	29%	攞lɔ3/持つ：鑊wok8/鉄鍋：菹pou6/卵をかえす
訓読字	21	3%	罅la5/隙間：凹nep7/へこむ：歪me3/歪んでいる
方言俗字	106	16%	𠵼gam1/丁度だ：𠵼gen1/瘦せていて小さい：𠵼je4/物
方言同音字或近音字	255	38%	湊ts'eu5/世話する：演jin3/蹴る：審sem3/撒く
借用字	93	14%	𠵼kem5/この様に：𠵼let7/落ちる：𠵼p'ɔ1/草木を数える

この表で興味深いのは、同音或は音の近い既存の漢字を当てた「方言同音字或近音字」が38%で最も多いのに対し、「訓読字」はわずか3%であるということである。前者は、例えば表中の湊が「集まる」という意味のほかに「世話する」という意味が加わるように、本来の意味と粵語特有の意味の「両義」をもつ字となり、ちょうど後者が本来の字音と粵語の訓読音の「両読」をもつ字となるのとは逆である。つまり粵語は文中で両義一読字を多用していることになる。これは一義両読字を多用する閩南語と対照的となるのである。

さて、粵語の訓読字の半分以上を占める古字については説明してこなかったが、表5の古本字の数の多さから考えて、元来この古本字に属していた可能性が高く、訓読音の多用によって、元の字音が使われなくなったと考えるのが自然であろう。もちろん閩南語にも鱧のような訓読字があるのだから、過去に同様の歴史がなかったとは言えない。

7. おわりに

前述したように閩南語の訓読字には訓読音と本来の字音の二つの音をもつ字が多い。本来の字音は文言音と同様、簡単に言えば、フォーマルな場面や文章を読むときに必要で、元来、伝統的な漢字教育、識字教育を受けて、身につくものであった。海南閩南語に大量の訓読が存在するのはこの教育が途絶えてしまったからだとして、以前村上(1999)で述べたが、それにより具体的に海南閩南語がどのような変化を起こしたかといったことまでは言及しなかった。この辺りのことについては別の機会に譲りたいと思う。

本稿では閩粵の訓読の特徴と原因について述べてきたが、閩南語の訓読字の多さは漢民族への強い帰属意識を表しているということもできる。それは当て字や古本字、方言俗字といった地域性のある字の多い粵語地域とは対照的にみえる。

参考文献

- 北大中文系(1989)『漢語方音字彙第二版』文字改革出版社
 陳鴻邁(1993)「瓊州方言訓讀字補」『方言』1,p.42-52.
 陳榮嵐・李熙泰(1994)『廈門方言』鷺江出版社
 村上之伸(1998)「漢語方言における文言層の形成について」中国語学会発表稿(6.20 青山学院大学)
 村上之伸(1999)「海南閩南語の「訓読」と「文白異読」について」『文教大学文学部紀要』13-1号

- 杜依倩 (2008) 「海口方言訓讀字再補」『語言研究』4,p.52-54.
- 黃典誠 (1980) 「閩語人字的本字」『方言』4 (『黃典誠語言學論文集』(2003) p.192-194.)
- 黃小婭 (2000) 「粵語方言用字一百多年來的演變」『第七屆國際粵方言研討會論文集《方言》增刊』p.237-260.
- 黃小婭 (2001) 「廣州方言訓讀字的百年演變」『中國語言通訊』第60期P.40-49.
- 李新魁等 (1995) 『廣州方言研究』廣東人民出版社
- 李如龍 (2001) 『漢語方言學』高等教育出版社
- 梁猷剛 (1984a) 「瓊州方言的訓讀字」『方言』2,p.146-154.
- 梁猷剛 (1984b) 「瓊州方言的訓讀字」(二)『方言』3,p.213-226.
- 千島英一 (2005) 『東方広東語辞典』東方書店
- 王福堂 (2006) 「文白異讀中讀書音の幾個問題」『語言學論叢』第32輯 (『漢語方言論集』(2010) p.9-18)
- 王建設・張甘荔 (1994) 『泉州方言與文化』鷺江出版社
- 廈門大學 (1982) 『普通話閩南方言詞典』福建人民出版社
- 詹伯慧 (1957) 「海南方言中同意字的“訓讀”現象」『中國語文』第6期
- 張盛裕 (1984) 「潮陽方言的訓讀字」『方言』2,p.135-145.
- 周長楫 (1993) 『閩南方言大辭典』福建人民出版社

注

- (1) 声調は数字で統一し、陰平、陽平、陰上、陽上、陰去、陽去、陰入、陽入調はそれぞれ1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8で、粵語の下陰入調は7-2で表す。鼻母音はNで表す。用例には広州音と廈門音を用いる。
- (2) 鬱(wet7) + 屈(kwet7-2) → 屈(wet7)
これは、屈を『増韻』の「鬱也」という記載から訓読字としているが、当て字と考えたほうがよいように思われる。
- (3) □(tæŋ1) + 啄(toek7-2) → 啄(tæŋ1) (「啄木鳥」の時は啄toek7-2と発音する)
これは啄の本来の字音toek7-2が個別的な字音の変化を起こしている可能性もある。このように本来の字音と訓読音が似ている場合や訓読音の本字が不明で「有音無字」の場合には特にあやしくなる。訓読を論ずる場合、音韻的ではない字音を全て訓読音として処理できるという点に注意する必要がある。
- (4) 恰(kap7-2) + 合(hap8/kap7-2) → 合(kap7-2)
合(kap7-2)は容量の単位を意味し、恰とは元来同音異義であったため、訓読の可能性は低い。
- (5) 踎は『廣韻』では丁貫切だが、普通話ではchuai4。
- (6) 語彙は廈門方言で、周長楫 (2006)、廈門大學 (1982) から選んだ。
- (7) 閩南語の文白異読は文言音を字を読むためのもう一つの層として体系ごと取り入

れている点で、特徴的だと言うことができる。この辺のことは王福堂（2006）、村上之伸（1998）に詳しい。

- （8） 李如龍（2001：64）によれば常用字の6割以上が文白異読字であるという。
- （9） 千島先生は『東方広東語辞典』（669頁）で、粵語の「無」についてはmou4と発音して「冇」の代わりに用いることもあると述べている。これは訓読ではあるが、あくまで代用であって、普通は「冇」を用いるということである。閩南語で「無い」を意味する有音無字のbo2が完全に「無：bu2」の訓読音となっているのとは大きく異なっている。

<付記>

本稿は1998年度第1回粵語研究会（6.13）における口頭発表「粵語の方言字と閩南語の訓読字」をもとに加筆、訂正しまとめたものである。その際、貴重なご意見を下さった諸先生方に心より感謝申し上げます。